

mysanitary 3

「リビングに隣接させたい」をかなえるサニタリー



吹き抜けのラウンジスペースに、引き戸で開閉できるサニタリースペース（シャワールーム、洗面、トイレ）を隣接。床材を連続させ、壁にはクラシックな装飾柄のタイルを用いることで、開放したときも、居室のインテリアイメージを損なわない。「SUITEROOM」(INAX)

mysanitary 4

「居室のくつろぎ感がほしい」をかなえるサニタリー



浴室と脱衣室の仕切りをガラスにすることで、両方に広がりが出され、ゆったりくつろげる。浴室はテレビ付きのシステムバス。脱衣室はリビングのような趣。「プレシオ」(トステム/INAX)

mysanitary 6

「自然を感じながら入浴したい」をかなえる浴室・洗面室



浴室・洗面室にバスコートを隣接させたプラン。大きな窓を設置し、仕切りをガラス張りにすることで、明るく清潔な雰囲気。子供が泥んこになって帰って来ても、外から直接お風呂に入れる。「エスプリ・パンセF」(ブライトホーム)

mysanitary 5

「ゲストにも心地よく」をかなえるトイレ空間



白を基調に洗練された雰囲気とコーディネートされたレストルーム。光を取り入れるスリット窓、石張りの床、シンプルでおしゃれな洗面ボウルにより、もてなしの装いをもつ空間に。「エルソラーナリヴィ」(パナホーム)

Sanitary

サニタリーライフ
プランニング
Styleから

ライフスタイルから
配置・動線を考える

建築コストや防水上の問題を考えると、浴室、洗面室、トイレは1階に、しかもまとめて配置するのが有利。しかし、使いやすいところが第一ですから、「わが家の場合は？」と、敷地の状況やライフスタイルを見つめ、プランニングすることが重要です。

家族の多い家庭では、朝、洗面室とトイレが混雑しがち。洗面コーナーを1階と2階の両方に配置するか、洗面ボウルを2つ設置するとよいでしょう。逆に、家族が少ない世代や高齢者世帯では、居室にサニタリーを隣接させると機能的です。家族の生活時間帯が大きく違う場合は、睡眠を妨げないために寝室とサニタリー空間を離したり、壁・天井の遮音性を高めるとよいでしょう。

また、ゲストを招くことが多い家庭では、生活空間と明確に分けることも重要です。家族用のサニタリーとは別に、ゲスト用のドレッサー+トイレを設けたり、プライベートスペースを見せない動線を確保する必要があります。

敷地条件から
適切な配置を考える

浴室、洗面室、トイレは、換気が必要な場所だからという理由だけでなく、通風・採光が確保されると、感覚的にも清潔で健康的な空間となります。

都市の密集地では防犯対策やプライバシーの確保という課題もあり、窓が思うようにとれないケースもあるでしょう。しかし、トップライトやハイサイドライトを設けたり、フロストガラスを使うなどして、視線を遮りながら採光を確保する方法があります。また、2階ならバルコニーをバスコートとして使ったり、眺望を楽しむことも可能。工夫次第で

mysanitary 2

「家事も！趣味も！」をかなえる洗面室



家具のような洗面化粧台に、椅子付きのデスクを組み合わせた洗面・脱衣室。アイロン掛けや洗濯物たたみに便利なのはもちろん、メイクや読書、趣味を楽しむもうひとつのプライベートルームに。「ラシス」(松下電工)

mysanitary 1

「ギャラリーのような空間に」をかなえるサニタリー



浴室・洗面室・トイレをワンルームとしてプランニング。打ち放しのコンクリートを背景に、気鋭のデザイナー、フィリップ・スタルクによる便器・バスタブ・洗面カウンターをゆったりと配置している。(KANEJIN)